



ダイヤモンド2020

株式会社 AP 代表取締役社長
株式会社 ピュアダイヤモンド 代表取締役社長
一般社団法人 日本グロウンダイヤモンド協会 代表理事
ベルギーAWDCダイヤモンドandアントワープ大使

石田 茂之

昨年は合成ダイヤモンド元年と言われていたが、実際に宝飾小売店で販売をスタートしたところは想定していたよりは少なかったと思います。しかし宝飾業界以外のいわゆる異業種から、ラボラトリーグロウンダイヤモンド(合成ダイヤモンド)の取り扱いを始めた企業は想像以上に多く、その販売方法は多岐に渡っております。新たなビジネスに可能性を見出して行こうとする異業種に対し、自己のビジネスを守ろうとする宝飾業界とは大きな違いを感じた一年でした。

合成ダイヤモンドが世に現れた事で、ダイヤモンド業界は今後大きな変貌を遂げていくのは間違いありません。それでは今後、ダイヤモンドはどの様に変

る可能性があるかを述べたいと思いますが、特に「天然ダイヤモンド」について説明します。

ラボラトリーグロウンダイヤモンドが販売される事により、今まで単にダイヤモンドであったものを、「天然ダイヤモンド」と呼ぶようになりました。今までの商売ではダイヤモンドにはわざわざ天然とは付かなかったのですが、ここにきて天然であるという価値が生まれてきたのです。では、天然ダイヤモンドの価値は何であると考えますでしょうか？ 天然の価値を明確に伝える事が出来ないならば、特性が全く同じであるラボラトリーグロウンダイヤモンドとの違いが見出せないのです。

ご存知の通り、天然ダイヤモンドには希少価値が

あります。とはいえ希少価値の目安とする4Cだけでは不十分です。当然ながらグレーディングレポートはラボラトリーグロウンダイヤモンドにもあります。また4Cグレードの高いラボラトリーグロウンダイヤモンドは成長させることが難しく、ある意味においてラボラトリーグロウンダイヤモンドにも希少性は存在します。

4Cグレードを除く天然の価値とは、天然だけが持つストーリーだと考えます。30億年も前から地球の地下奥深くで成長し、マントルを伝って地表近くまで上がったダイヤモンド原石は、その後ヨーロッパ等に渡り、熟練工によって研磨された後に日本に送られてきます。この一連の原石から手元に来るまでのストーリーこそが、天然ダイヤモンドが持つ価値と言えるのではないのでしょうか？ しかし、そのストーリーの信憑性を担保する為には、どの様な形をしたダイヤモンド原石がどこで産出され、どの様なルートを辿って手元まで来たのかを明確にしなければなりません。今はテクノロジーの進化により確実に証明できる時代になったのです。海外ジュエリーブランドは、すでにダイヤモンドのトレーサビリティを証明しながら紛争ダイヤモンドではない安心を併せ持ち、ストーリーにして販売をしております。ダイヤモンドジャーニーと言われるストーリーは、今後天然であると言う強みを引き出す唯一の魅力になると考えます。ただ、ダイヤモンドの原石には名前がありません。原産地証明書が付いていると言われても本当かどうかの確

信がないと取り扱い出来ません。これには注意が必要です。今までひょっとしたら見逃していたダイヤモンドジャーニーというストーリーを再度説明する事で、コンシューマーにとって天然ダイヤモンドの価値を明確化して購入チャンスに繋げる事が出来ると考えます。

米国ではラボラトリーグロウンダイヤモンドが、ダイヤモンド全体の流通量の10%を超えたとされており、予想以上に大きな数字となっております。本年以降、益々天然ダイヤモンドに及ぼす影響が大きくなる事は必至で、日本にもその波は必ず訪れるはずで

今後、ダイヤモンド販売は以下の3つに集約されると考えます。

- ・2次流通を含む天然ダイヤモンドの低価格販売
- ・ラボラトリーグロウンダイヤモンドの販売
- ・トレーサビリティを付加した天然ダイヤモンドのストーリー販売

今年1月の国際宝飾展IJTには、ラボラトリーグロウンダイヤモンドの海外業者が10社以上出展します。鎖国が解けると言われている今年は、ダイヤモンド販売が3つのカテゴリーのうち、どの方向性を取るのかを明確にしなければならない年になると考えます。

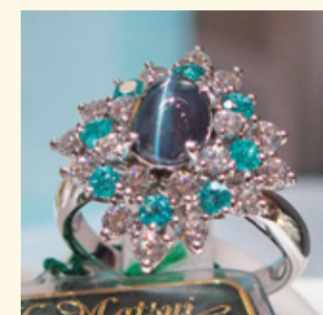
トルコ・イスタンブールに魅了され20年 文化的役割を担うジュエリーデザイナー松井久子さん

～日本とトルコの友好の架け橋～



2003年の「日本におけるトルコ年」において、記念イベントとして特別コレクションを発表したのをはじめ、世界的に有名なイスタンブールにそびえ立つ歴史的建造物のアヤソフィア、ブルーモスク、トプカプ宮殿などをモチーフにした大作3部作をほか、ジュエリーを通してトルコの文化を紹介した功績により、トルコ政府から表

彰を受けるなど、20年の間トルコ・イスタンブールに魅せられ、日本人の感性によるイスタンブールを伝えるジュエリーデザイナー松井久子さんの活動は、松井さんがスタートしたときに掲げた



「私の作品を通じて、少しでもトルコの魅力をPRでき、日本とトルコの架け橋になれば」との想いをすでに超え、文化的な役割も担っている。

昨年の11月26日には、トルコ共和国大使館において、トルコ共和国特命全権大使の協力要請により「松井久子トルコ文化年記念個展～新作発表会～」が開催された。

その際、トルコ共和国特命全権大使ハサン・ムラット・メルジャン氏は「本年は、「トルコ文化年」として、文化、芸術、食などの魅力を紹介する数多くのイベントを開催してきましたが、奥深いトルコの文化と日本の美術を融合させた松井さんのジュエリーを通して、新たなトルコの魅力を発見していただけることに期待しています」と話していた。

松井さんは「イスタンブールに魅せられ新作ジュエリーを毎年発表し続け、早20年が経ちます。アジアとヨーロッパが融合して独特な文化を醸し出すイスタンブール。オスマン帝国時代の繁栄を極めた文化遺産の宝物、そしてシルクロードの拠点。絶妙な構築美と万華鏡の煌きに心ときめき五感で感じる幸福は、なにもにも変えられない瞬間です」などと話し、日本の新年号令和(Reiwa)をイメージした新作「Reiwa & Lale(チューリップ)」を発表した。

トルコではLaleがシンボルの花。神の花として称えられている。また、これを記念してデザインした作品の数々も並べられた。

個展では、記念作品のほか、トルコ料理や音楽などトルコの魅力も紹介された。



キャラクタージュエリー

ted2

テッド



新作ジュエリーも多数リリース!

販売元:
MARUZEN Co., Ltd.

第31回 国際宝飾展
31st INTERNATIONAL JEWELLERY TOKYO

Booth No. **A6-56**

TM & © 2015 MRC and Universal. All rights reserved.

LOVEMARK * DIAMOND



New Year...
New Start...

DIYARTH

1F-OLINAS, 2-1-4
Taihei Sumida-ku,
Tokyo, Japan.

岩舟屋

6-964 Furumachidoori,
Chuo-ku, Niigata,
Japan

EYE EYE ISUZU

1-1523 Tahishimomachi,
Takamatsushi, Kagawa, Japan